

4年生 「Unit7 What do you want?」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【具体的な工夫】

ワークシートや ICT 機器を活用することにより、活動内容を分かりやすくし、学習を効果的に進めることができるようにした。また、黒板に本時の学習の中心となるフレーズやイラストなどを提示し、視覚的情報として示すことで、児童に分からないところがあれば黒板を見ればヒントがあるという安心感を与え、学習が苦手な児童も楽しんで活動することができるように工夫した。

児童が自信をもって会話ができ、欲しいものを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しめるように野菜や果物の単語や “What do you want?” などを ALT と一緒に何度も練習した。

【学習形態の工夫】

ALT と教員のデモンストレーションから ALT と代表児童のコミュニケーション、児童同士のコミュニケーションといった流れで活動を設定することで、児童全員が活動の見通しをもてるようにした。また、児童同士の活動ではコミュニケーションを行うメンバーをどんどんチェンジしていくことで、たくさんの友達と関わり合いができるようにした。

【学ぶ楽しさを味わうための小道具を使った工夫】

児童が楽しく英語に慣れ親しむことができるよう、パフェ店員の衣装を着用してデモンストレーションを行った。教員がパフェ店員になりきって会話している姿を見て、自分もやってみたいという意識を児童たちがもつことができた。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【具体的な工夫】

黒板に学習した単語の意味や使い方を示しておくことで、安心して言語活動に取り組めるように工夫した。また、ALT とのスマールトークでは、毎回本単元で登場する食べ物に関するテーマで行うことで、学習の必然性を高められるように工夫した。

【学ぶ楽しさを味わうための端末の工夫】

児童が楽しく英語に慣れ親しめるよう、1人1台端末のスクールタクトを用いてパフェやピザづくりを行った。ピザづくりでは、自分のオリジナルピザをじっくり考える時間をとったことで、それを友達に積極的に伝えたいという思いをもって、会話を楽しむ児童の様子が見られた。

児童が英語に興味・関心をもって取り組めるように1人1台端末のスクールタクトを用いてパフピザづくりを行った。想像を膨らませて自分のオリジナルのパフェやピザをつくることで、楽しく友達に自分の作った物を伝えることができた。

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○ALT とのデモンストレーションや児童同士のコミュニケーションのやり方を工夫し、活動の見通しをもてたことで、自信をもって伝え合う児童の様子が見られた。

○野菜や果物の材料をもとに、自分や友達のパフェやピザを作るという目標が児童の興味関心を高め、自分の考えを伝えたいと思わせるような場面設定だった。

○スクールタクトを使いオリジナルのパフェやピザを作り友達と紹介し合うことで、英語を話すことが苦手な児童も進んで活動をするようになった。

●単語の練習は ALT の発音に続いて児童が発音するという単調なものになってしまったことで、会話の中でなかなか単語が出てこない児童も見られた。

●難しい単語や読みが分からない発音があると、沈黙になってしまう児童もいた。

●単語や “What do you want ?” の発音の練習では、ALT と一緒に演習し、言い方には慣れてきたが、友達同士になると緊張や恥ずかしさからか話せない児童も見られた。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○ICT を活用したことで、英語が苦手な児童も積極的に活動に参加することができた。

○ペアやグループで活動することで、相手意識が高まり、協力して英語を利用しようとする様子が見られた。

●ICT でオリジナルのパフェやピザをつくること自体が目的となり、肝心の英語でのコミュニケーションがおろそかになっている児童も見られた。明確な目的やルールを单元ごとに確認していく必要がある・

●スクールタクトを使ってオリジナルのパフェやピザをつくることに意識がいきってしまい、本来の英語で紹介するという目的が薄れてしまった。パフェやピザをつくる時に入れる野菜などの数や種類、目的をきちんと指導する必要がある。